

タイトル：平成 30（2018 年度） 教育セミナー（第 14 回）

日時：2018 年 9 月 13 日（木）～16 日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室（303）

佐藤泉（東京外国語大学大学院総合国際学研究所 博士前期課程 世界言語社会専攻 1 年）

中東イスラーム教育セミナーに参加させていただき、本当にありがとうございました。私の研究対象地域は韓国で、今まで東アジアのことばかり学んできたので、中東イスラーム研究に触れる機会はほとんどありませんでした。高校生の時にイスラーム史を学び、大学の学部時代にイスラーム文化に関する本を読み、中東イスラーム地域に興味を持ち、今回の教育セミナーに参加したいと思いました。私はイスラームに関する専門的な知識がほとんどないため、発表やディスカッションの内容を理解するのが難しいと感じる時もありましたが、先生方、他の受講生の方々にたくさん助けていただきました。黒木先生には新イスラーム辞典を貸していただきました。ありがとうございました。

今回のセミナーで初めて、中東イスラーム研究に触れて、研究対象地域、言語の多様性にまず驚きました。中東イスラーム地域と一言に言ってもとても広い範囲で、様々な地域、国があり、言語、文化、風習、イスラーム教に対する考え方、女性の社会的身分など、大きく異なっているということがわかりました。それぞれの国や地域で様々な違いはあっても、中東イスラーム地域においてイスラーム教という宗教はとても重要なものであり、日常生活、教育、様々なことに関する価値観の根底をなしているもので、中東イスラーム地域の人々を理解するうえで大切なものであるということを実感しました。宗教に対する考え方が東アジア地域と中東イスラーム地域ではやはりかなり異なっていると感じました。しかし、家族を大切にし、周囲の目や地域社会からの評価を重要視するという点においては、東アジア地域と中東イスラーム地域の人々は共通していると感じました。パキスタンのヴェールを被る女性たちに関する研究発表でヴェールを被る理由に、友達から浮かないようにするため、周囲の人から変な風に見られないようにするためという理由があり、興味深いと思いました。私はイスラーム教の女性がヴェールを被るのは、イスラーム教の教えを守るためか、自分の身を守るためだと思っていたので、周りの人と上手に付き合い、浮かないようにするという私達と同じような感覚でヴェールを被ることもあるということを知って、とても面白いと思いました。

他の学生の方々の発表、調査研究が素晴らしかったです。研究の課題、目的、問いを明確に設定し、先行研究の検討や分類を行い、調査方法、調査分析結果について最後に詳しく書くというように、的確でわかりやすい発表レジメの書き方、発表の仕方をされている発表者の方がいて、私も自分の研究を進めていくうえでとても参考になりました。発表者の皆さんがそれぞれいろいろな分野、地域、言語について研究されていて、普段絶対に聞くことができない研究のお話を聞くことができ、本当に楽しかったです。また、一人ひとりの発表者の

質疑応答の時間に、先生方が研究の課題、目的、意義について考え、明確にする重要性や資料、データの分析方法、研究方法の問題点についての的確な指摘をされていて、学ぶことが本当に多かったです。先生方の発表の時間では、先生方がどのような研究人生を送り、壮大な研究調査を行ってこられたかをお聞きすることができ、本当に素晴らしい経験をすることができました。

最後に、このような充実した教育セミナーの場を設けてくださり、本当にありがとうございました。先生方の中東のお土産のお菓子をいただき中東の食文化に初めて触れたこと、セミナー中、セミナー以外の時間に先生方、他の受講生の方々の中東イスラームに関するお話をお聞きできたことも忘れられない思い出になりました。